

静岡文化情報

(財) 静岡市文化振興財団

まちかど

VOL. 37

MACHI-KADO



登呂周辺

登呂周辺 MAP



明治乳業静岡工場

静岡市立商業高校

富士見台

静岡キリスト教会

富士見小学校

有東

駿河区役所

P11
特集B 静岡新聞社・静岡放送

P12-13
エリアC

セントラルスクエア静岡

P09-10
エリアB

石田

やよい幼稚園

登呂

P06-08
特集A 登呂公園

登呂博物館

芹沢銈介美術館

静岡市高松浄化センター

牧牛寺

P04-05
エリアA

西脇

ほのぼの保育園

東名高速道路



弥生時代の昔から、登呂は水田と縁が深い。一説には「登呂」の名は「泥」に通じ、泥田、又は湿地を意味する地名であったのとか。その名の通り登呂地区は湿地帯であり、土地の多くは水田として利用されてきた。実際、登呂遺跡の発掘調査でも、弥生時代の集落が洪水で流されてからは断続的に水田として利用されていたことが明らかになっている。

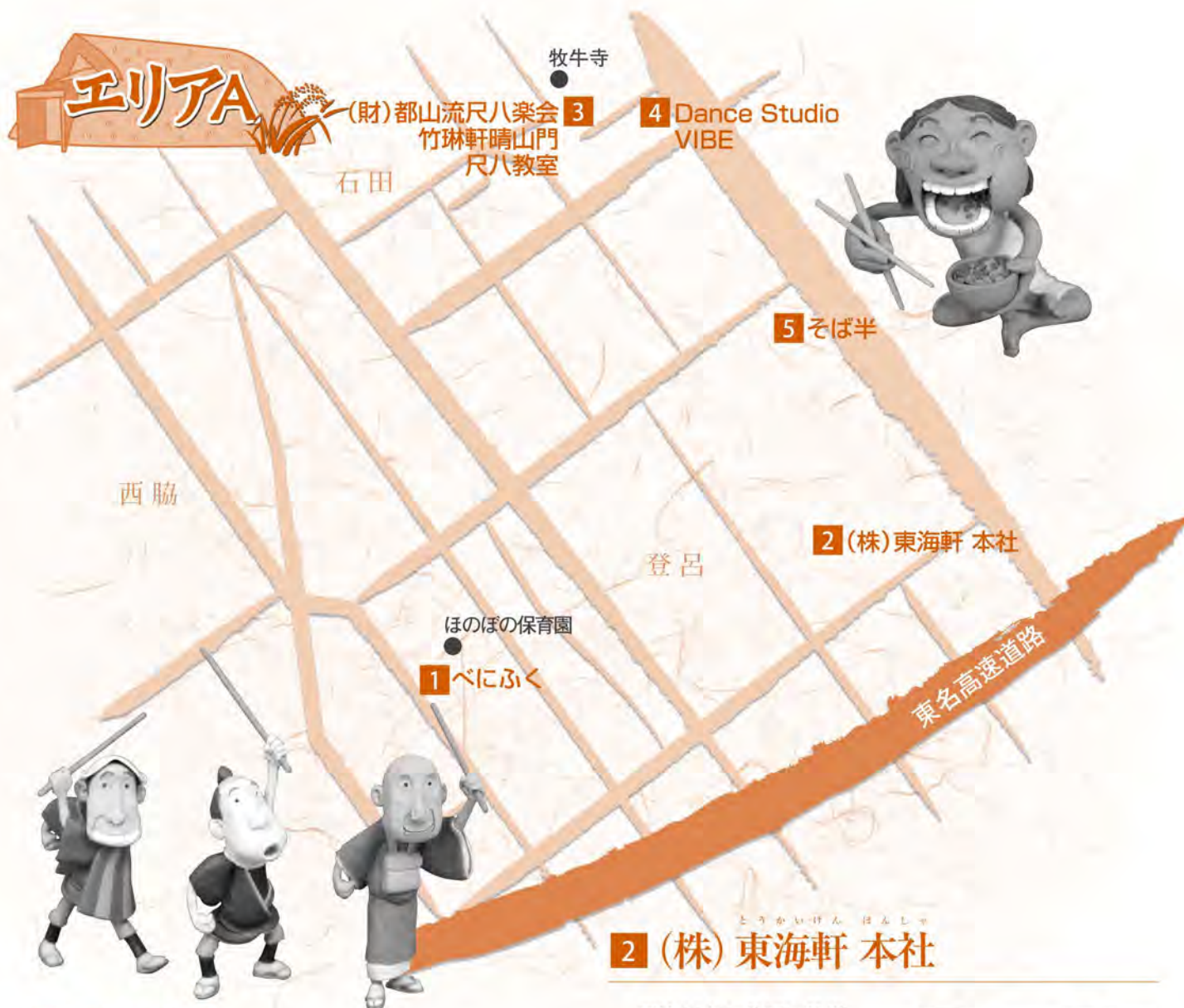
その後、第2次世界大戦中の軍需工場の建設と登呂遺跡の発見、そして昭和40年代の東名高速道路建設と高度経済成長の中で徐々に宅地化が進み、現在の姿になった。登呂地区の道路が格子状に整っているのは、元々そこが畔道だったからだろう。さて、登呂地区といえば、やはり中心となるの

は登呂公園であろう。国の特別史跡であることは今さら述べるまでもないが、現在行われている再整備によって、地域の人にとってもより身近な公園となった。登呂博物館は資料の収集と展示だけでなく「体験型学習の場」として再建、公園全体もウォーキングコースとしても楽しめるなど「都市公園」としての機能が強化されている。

元々近隣には生涯学習施設や図書館などの公共施設が揃っているほか、近年では区役所やショッピングセンターも建ち、利便性も高まっている。

遠く弥生時代、水田に面した中規模集落であった登呂の地は、現在では生活環境に優れた住宅地となりつつある。

至焼津



1 べにふく

“おでん”の文字が踊る赤いのぼり旗と、赤ちようちんが目印のべにふくは、10人も入れればいっぱいになりそうなこじんまりとしたおでん屋さん。

店を切り盛りする“たかちゃん”こと落合昂代さんが「おでんは自分の子どものような存在」と話すように、たかちゃんが愛情をたっぷり注ぐ静岡おでんと、その温かくて親しみやすい人柄に惹かれ、創業当時の常連も多い。

創業は30年前程。当時は町内の人たちが自主的に宣伝チラシを配布するなど、地域ぐるみでべにふくを盛り上げようという取り組みがあったという。そんな協力が得られたのも、たかちゃんの人柄があってこそだろう。

たかちゃんの人柄に触れながらおでんを口にすると、随分と昔からお店に通っているような、そんな気分になるおでん屋さんだ。



“たかちゃん”こと落合さん

2 (株) 東海軒 本社

明治22年に静岡に鉄道がしかれ静岡駅が開業して以来、立ち売りの駅弁から始まった東海軒は120年以上にわたり静岡の味を代表する弁当を作り続けている。長年静岡駅の顔として愛されていた駅前の旧本社では24時間弁当を販売しており、飲んだ帰りに買っていく人もいたとか。その東海軒、平成22年には本社を移転、現在では活動の拠点を登呂に移している。

東海軒といえば駅弁。

中でも明治29年より販売している「元祖 鯛めし」は子どもから大人まで100年以上も愛される超ロングセラーだ。甘い味付けの鯛めしを、旅の列車の中で食べた思い出のある方も多いのでは。

静岡駅開業以来、静岡の街の発展と共に歩んできた。昔ながらの味をそのままというお客様からの要望は強く、内容もパッケージも伝統的に長年変わらないものが多いという。経木を使った愛らしい弁当箱も、ほどよく水分を逃がすための昔からのこだわりで、米粒がこびりついてしまうという木ならではの趣を愛する人も多いとか。「ここに来ればこの味が食べられる、という弁当でありたい」と社長の加藤さんは話してくれた。



社長の加藤さん(左)と工場長の山口さん(右)



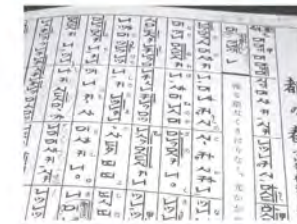
3 (財) 都山流尺八楽会 竹琳軒晴山門 尺八教室

都山流尺八楽会の師範である石垣さんの教室。尺八というと若い人には馴染みがないイメージがあるが、教室には小学生や高校生も在籍しており、石垣さんは幅広い世代へ尺八の楽しさを伝えている。

石垣さんが尺八を始めたのは5歳の頃。父親の尺八を遊び心で触ったのがきっかけだったそうだ。以来、この古典芸能に魅了され、父親の世界を機に本格的に都山流入門。師範を襲名し、父親の教室を受け継いだとのこと。

そんな石垣さん、近ごろではよりいっそう尺八を楽しむために、現代曲の演奏にも積極的に挑戦しているそうで、ジャズ奏者とのセッションも行っているという。

「基本を大事にしながらも、従来の枠にとらわれずに楽しんでいきたい」と話す石垣さん。尺八を始めた頃の“遊び心”をいつも心に刻みながら活動を続けている。



カタカナで書かれた尺八の楽譜



ちょっと小話

子どもたちへの稲作指導

石垣さんは登呂公園内の田んぼを活用し、子どもたちへの稲作指導にも力を注いでいる。石垣さんが会長を務める市子ども会連合会が実施する「田遊び事業」では、子どもたちが田植えから案山子作り、稲刈りまでの作業を体験。体験を通じて、子どもたちに食と農業の大切さを伝えている。

この他にも、近隣の小中学校の授業として行われる稲作体験の指導にもあたっており、「弥生時代のように集団で稲作作業を行うことにより、お米の大切さはもちろん、協調性の大切さも学んでほしい」と話す。他の地域では見られない、登呂ならではの取り組みだ。

4 Dance Studio VIBE

石田街道沿い、登呂遺跡入り口交差点に位置するダンススタジオ。ジャンルはヒップホップダンス、ジャズダンス、ハウスダンスなど幅広く、代表の大川さんをはじめ県内外で実績のあるダンサーが指導にあたっている。

また、キッズクラスから本格的なダンスレッスンに取り組むクラスまで、そのカテゴリーはさまざま。3才からレッスンに励んでいる子どももいるという。

大川さんはダンスの魅力を「ステージに立った瞬間主役になれること」だと言う。ご自身も、これまでに多くのステージに立っており、会場の脚光を浴びた時の爽やかな気持ちをたくさんの子生徒に伝えたいという。

レッスンの成果はダンスコンテストのほか、毎年登呂公園で行われる「登呂まつり」でも披露しており、この地域ならではの活動も行っている。次なる“主役”を目指し、子どもたちが日々練習を行っている。



5 そば半

そば半は、石田街道沿いに建つ手打ちそばのお店だ。メニューを開くと目に入るのが「遺跡そば」の文字。店長の興津さんによると、かつて登呂遺跡の脇を流れていた登呂川の名残である、登呂の地下水をそば打ちに使っている事その名の由来だという。メニューには他にも縄文そば、弥生膳など古代にちなんだ名前が並ぶ。ふと目に止まったのが三登呂そば。三登呂というのも歴史用語だろうか興津さんに尋ねてみると「とろろ、オクラ、納豆と、トロトロのものが3つ入って三登呂そばです」と笑いながら答えてくれた。

店内で目を引くのが、立派な古木のテーブルだ。こちらは弥生時代の登呂遺跡よりもさらに昔の、縄文時代の杉でできているとか。本来はテーブルではないそうで、脚がついていないのだという。ではどうなっているのかとテーブルの下を覗き込んでみると、脚の代わりに支えているのは古い臼。ケヤキの古木で作られたもので、目立たないながらも味わい深い存在だ。

他にも店内を見渡すと、歴史を感じさせる品々がちらほら。美味しいそばに舌鼓を打ちながら、この場所で古代に思いを馳せてみるのも贅沢な時間の過ごし方ではないだろうか。



親子仲良くお店を営む興津さん



特集A 登呂公園

静岡市の史跡と聞けば、必ず名前があがる登呂遺跡。
今、登呂遺跡を中心とした区画が
生まれ変わろうとしている

登呂遺跡再整備の経緯

九州吉野ヶ里遺跡の発見を機に、同じ弥生時代の史跡である登呂遺跡の再評価の機運が高まり、平成3年、静岡市により登呂遺跡の再整備に向けた「整備基本構想」が策定された。その後、静岡市は有識者を含む「特別史跡登呂遺跡整備検討委員会」を設置し、基本構想に基づき「整備基本計画」を策定した。

平成11年から15年にかけて再発掘調査が行われ、新たな事実とともに登呂遺跡の詳細が確認された。これら調査の結果を踏まえ、静岡市は平成16年から17年にかけて「再整備基本設計」と「実施設計」

を策定し、翌平成18年より再整備工事に着手した。

現在までに、居住域と水田域の遺構等の復元として、住居4棟と倉庫2棟、祭殿1棟及び水路の復元が完了。さらに水田及び屋外体験学習地区や飛び地の工事が進められており、平成24年4月のリニューアルオープンに向け、再整備工事は着々と進行している。

■再整備工事により生まれ変わる復元住居



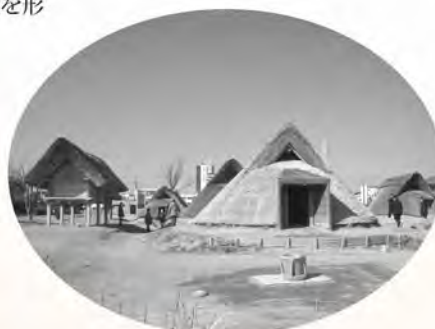
登呂遺跡

登呂遺跡の本格的な発掘調査が始まったのは、終戦を迎えて間もない昭和22年だった。敗戦によって価値観が大きく変わった日本で、古代から続く日本の文化を伝える登呂遺跡の存在は人々の心の支えになっていったのだという。調査開始の翌年の昭和23年には国立博物館で登呂遺跡展が開催されたというから、注目度がいかに高かったのかが窺える。登呂遺跡は、当

時の日本考古学文化の最先端の地だったのだ。また、登呂遺跡の発掘のために結成された「静岡市登呂遺跡調査会」には、考古学者をはじめ、人類学・地質学・動植物学・建築学・農業経済学などの各分野の学者たちが参加。これが後の「日本考古学協会」へと発展していくことになる。登呂遺跡は、戦後の考古学会を形作っていった存在でもあるのだ。



▲平成11年の発掘調査で発見された史跡をもとに再現された「祭殿」



▲おなじみの竪穴式住居と高床倉庫

史跡公園としての登呂遺跡

静岡市の策定した「再整備基本設計」には、以下のとおり事業方針が掲げられている。

＜登呂遺跡再整備事業の方針＞

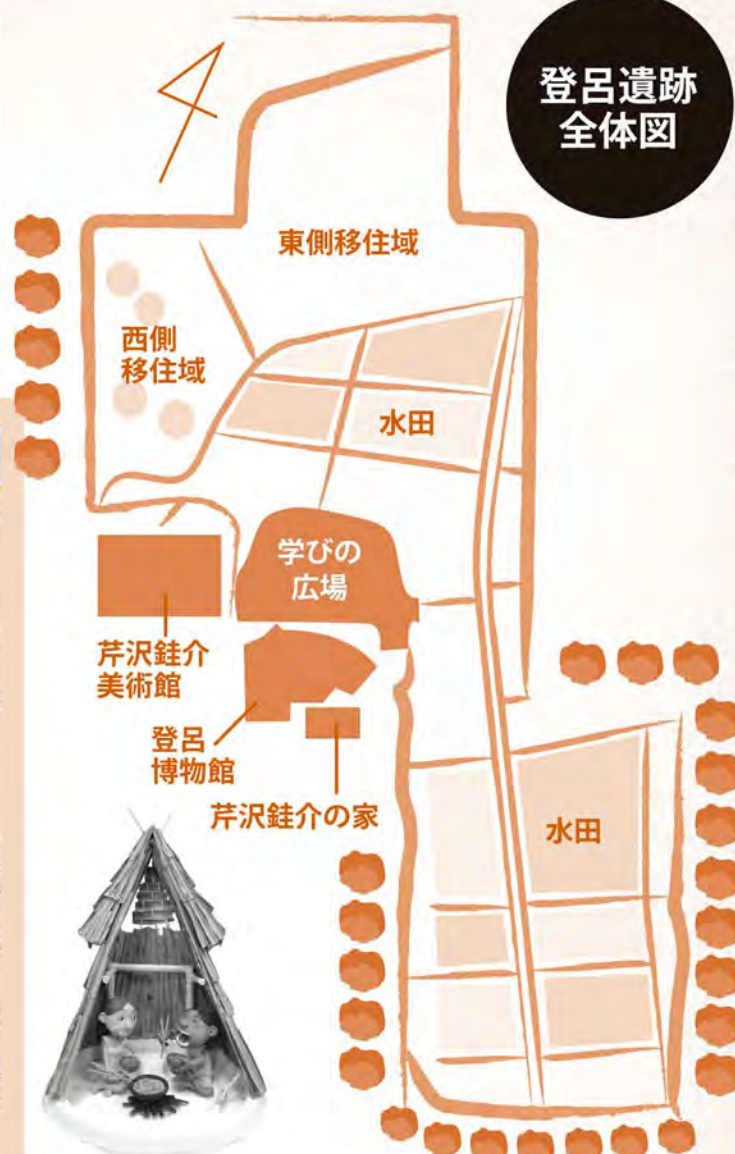
- 生活と米づくりとが結びついた登呂遺跡の特徴を活かし、弥生時代の集落を正確に復元した歴史公園とします。
- 園路や植栽、広場などの公園機能を周辺部に配置します。
- 弥生時代の生活の様子を体験できる仕掛けを用意するなど、体験学習の場とします。
- 博物館と連携し、全国に情報を発信します。
- 来訪者及び近隣利用者の視点に立ち、双方の期待に応えられる要素を備えます。

ここには、これからの登呂遺跡の「役割」と「期待」が込められている。史跡として、後世の人たちに弥生時代の生活や、その在りし日の姿を正しく伝えること。都市型公園として、地域住民のコミュニケーションの場を提供すること。特に登呂遺跡は市街地に存在するという立地条件から、史跡としての役割だけでなく、その地域に溶け込み、地域にとっての付加価値を生み出す存在となることが求められている。

「史跡としての役割」と「都市型公園としての役割」が、これからの「登呂公園（登呂遺跡）」に求められている役割であろう。

登呂遺跡は、今、生まれ変わろうとしている。新たな役割を担い、静岡市や地域住民にとって新たな価値と存在感を持つ史跡公園となることが期待される。

登呂遺跡全体図



登呂博物館

前身である静岡考古館のオープンは昭和30年。50年以上の歴史を持つ登呂博物館は、平成22年のリニューアルで、体験型の博物館に生まれ変わった。

1階には、「弥生体験展示室」、「図書コーナー」、「交流ホール」などがあり、これらはすべて無料で利用可能だ。中でも印象的なのは、やはり「弥生体験展示室」であろう。弥生時代の村を再現したスペースの中で当時の生活を体験する事ができる。この展示室では、展示されている復元住宅に自由に入ったり触れたりすることができる。

また、弥生時代の貫頭衣に身を包んだボランティアの方々があり、それら展示物の体験を指導してくれる。ここでは古代の暮らしを現代に伝えるのと共に、ボランティアの方々の情熱が子どもたちに受け継がれていく。

また、2階には「常設展示室」と「特別・企画展示室」があり、この史跡から発掘された貴重な資料群が展示されている。今後は常設展示のみでなく企画展示も開催していくとのこと。ただ発掘物を眺めるだけでなく、弥生時代の生活のすべてを見て、肌で感じる事ができる博物館なのだ。

マスコットキャラクター「トロペー」

今回のリニューアルにあたり、イメージキャラクターである「トロペー」が誕生。トロペーのデザインと名称は、それぞれ市民からの公募により決定した。登呂遺跡・登呂博物館と市民をつなげる架け橋として活躍中である。



◀弥生体験展示室で火起こしに挑戦する中学生。中々できずに苦戦中。「難しい……」

芹沢銈介美術館

登呂公園の一角にその入り口はある。まるで地下から「にゅっ」と現れたかのような重厚な石積みの外観の建物こそ、静岡市が誇る染色家・芹沢銈介氏の作品と芹沢氏本人が蒐集したコレクションを収蔵する「静岡市立芹沢銈介美術館」である。

この美術館は、芹沢氏より郷里の静岡市にその作品とコレクションが寄贈されたのを機に建設され、その設計は日本建築界の大家の一人である白井晟一氏（1905-1983）が手掛けた。白井氏はこの建物の設計にあたり、登呂遺跡の雰囲気と自然に溶け込むよう、石や木、水といった天然素材の構成を意識したとのことで、その設計思想は建物の随所で感じ取ることができる。

一歩中に踏み込むと、外観とは変わり、木のぬくもりと石の静寂が自身を包み込んでいく。そんな凛と張った空気の中に、芹沢氏の作品が展示されており、建物の雰囲気と相まって、それら作品に込められた魂が鑑賞者を一気に別世界へいざなってくれる。

鑑賞につれて高まる緊張感。そんな緊張感を解きほぐしてくれるのが、美術館入口から眺めることができる「池」と特別室から眺める「坪庭」であろう。池には噴水が湧き出ている。特に晴れた日などは、太陽の光が輝めき、外界と内界のコントラストを際立たせてくれる。また特別室の坪庭には、梅の木が植えられており、季節には風情ある梅の花が、鑑賞者の心をなごませてくれるという。

芹沢氏と白井氏という二人の芸術家が、芸術と自然の調和を生み出した。この調和にそが、この美術館の価値のひとつかもしれない。



芹沢銈介という人物とその魅力

芹沢銈介は、明治28（1895）年静岡市葵区本通に生まれました。東京高等工業学校（現・東京工業大学）図案科卒業後、師・柳宗悦と、沖繩の染物・紅型（びんがた）に出会ったことを契機に、34歳のときに染色家としてデビューしました。芹沢には色彩と模様に対する優れた才能があり、日本の伝統に基礎をおきつつ、写生を基にした新鮮な作品を次々と制作し、染色界を牽引する存在になっていきました。昭和31（1956）年に「型絵染」で重要無形文化財保持者（通称人間国宝）に認定され、以後「鯉泳ぐ文着物」「御滝図のれん」「丸紋いろは六曲屏風」等、従来の染色の枠組みにとらわれない、独創的な作品を生み出しました。

芹沢は非常に多作ですが、全作品を通じ

て明解かつ温和な作風を貫いた点に特徴があり、多くの人々に愛好されました。昭和51（1976）年には文化功労者になるとともに、パリで大規模な個展を行い、地元紙・モンドに「この類稀な染色物の位置を、マチスの切り紙とならべておくのは、あながち間違いとは言えまい」「（染色以外の作品も）ブラック、クレイに匹敵するものがある」という展覧会評が出るほどの高い評価を得ました。昭和59（1984）年4月、88歳で惜しまれつつ永眠しましたが、没後もイギリス、ロシア、アメリカと海外での個展が続き、国内でも再評価の機運が高まっています。芹沢銈介は、まさに静岡が世界に誇る芸術家です。

芹沢銈介の家

静岡市立芹沢銈介美術館に併設されている（といっても少し離れているしわかりにくい場所にあるが……）この建物、芹沢銈介氏の生前の住居兼アトリエである。実はこの建物、建物のくせに、二度の「引っ越し」を経験しているから大したものである。この建物はもともと宮城県登米市石越町にあった板倉。芹沢氏はこの板倉に強く魅かれ、昭和32年に、当時自宅のあった東京蒲田へ移築し手を加えている。その後昭和62年には東京蒲田の地からこの静岡に二度目の移築、都合、二度の引っ越しを経て静岡へ「定住」したのである。

芹沢銈介美術館開館日（かつ日曜・祝日のみの開館）であるが、芹沢氏の趣味が窺える貴重な空間を体験できるので、機会があればぜひ足を運んでいただきたい。



静岡市立芹沢銈介美術館 館長 菊池保朗

芹沢銈介の略歴

- 1895年 5月13日、静岡市に生まれる。
- 1916年 東京高等工業学校（現・東京工業大学）卒業。
- 1929年 国画会展に「杓子菜文壁掛」を初出品、国画奨学賞受賞。
- 1939年 初の沖繩滞在、紅型の技を受ける。
- 1956年 重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定される。
- 1976年 文化功労者となる。フランス、パリの国立グラン・パレで大規模な個展「芹沢銈介展」が開催される。
- 1984年 4月5日、逝去（享年88歳）



エリアB



7 天魁 大津 足心道

「健康は身近にある」をモットーとしている大津さんの療術所。足心道とは、足に表れた変化によって身体の異常を発見し、足をもみほぐすことで全身の機能を活発にさせる療法だという。

とは言え、基本的には「健康は身近なところから。つまり自分自身を見直すこと」といった指導を行っている大津さん。「口うるさくてちょっぴりこわいおじさん」といった雰囲気だが、生活習慣の改善について、親身になって指導してくれる。

そんな大津さん、趣味は「歩くこと」だそうで、過去には東京日本橋から京都三条までの往復を歩いたこともあるそうだ。その時の写真を眺め、そこで出会った人々との思い出を話してくれる姿からは、「ちょっぴりこわいおじさん」とは違った一面が感じられる。

最後に「身体のことでは心配事があったら気軽に相談してくれよ」と声を掛けてくれた大津さん。ぶっきらぼうな口調だが、人との出会いを大切に、親身になってその人のことを考えてくれる、実はとても「気のいいおじさん」だ。



6 創業屋 花城

創業屋 花城はその名の通りの惣菜屋だが、お持ち帰りの惣菜売り場の他に、惣菜売り場には並ばないメニューも楽しめるお食事処を営んでいる。人気メニューのひとつは坦々麺で、あまりの人気ぶりにラーメン専門店「花いち」を別の場所にオープンさせてしまったほど。花いちでは豚骨、花城では鶏ガラと違ったスープを楽しめるとあって、本家である花城の坦々麺も変わらず愛されている。

ご主人の花城さんは中学生の頃からこの場所で暮らしているという。お店をオープンした14年前に比べると近隣の道路が拡張され、大型商業施設もできて、夜も多くの人が通るようになった。初めは中華料理が中心だったお店も、時代に合わせて居酒屋風のお店へ、そして今では家族で楽しめるお店へと姿を変えてきた。

変わらないのは「この土地が自分に合っている」と語る花城さんの心意気。これからも気取らず、仲間同士でくつろげる店でありつづけるだろう。



ちょっと小話

こんなところにも登呂遺跡 ～森林跡～

登呂公園のわずかに西、住宅街の合間の2か所に、登呂遺跡と同時に発見された森林跡が保存されている。再整備に伴う調査で登呂遺跡よりも後の時代のものだとなってきたが、独特の味わいを持った力強い根株の並ぶ姿には一見の価値がある。



8 キッチンみのりや

登呂公園が目と鼻の先にある「キッチンみのりや」は、登呂博物館が開館する前の昭和44年から続いている洋食屋さん。もともとレストランに勤めていた村松さんが独立し、以来、ご夫婦二人でお店を切り盛りしている。

店内には、目移りしてしまうほど種類豊富なお品書きが貼られており、「選ぶ楽しさ」が心ゆくまで味わえる。そのメニューに魅かれてか、お昼時にもなるとサラリーマンや常連客で満席に。その賑やかさからは、昔ながらの大衆食堂といった雰囲気が感じられる。

そんな豊富なメニューの中で、村松さんのオススメはポークステーキ。昔からのファンも多く、転勤で静岡を離れたお客さんがその味を懐かしみ、十数年もしてからわざわざ遠方から訪れることもあったという。

お店の周辺は田んぼが多く、住宅の数もまばらであった創業当時。それから42年経ったが、キッチンみのりやは移りゆく町並みの中で今も昔と変わらない味を提供し続けている。



9 オザワスタジオ

創業以来40年、ご近所には親子二代にわたり利用している方もいるという、登呂ではお馴染みのフォトスタジオ。「たくさんの笑顔が見たい」という思いで人々を撮り続けている社長の小澤さんは、ほんわかとした笑顔と優しい雰囲気印象的だ。

被写体の自然な笑顔を引き出すのが腕の見せ所、という小澤さん。カメラの前で笑顔を作るのは得意でない人でも、小澤さんが撮影すれば自然と笑顔になってくるそうだ。撮影の際に掛ける言葉は「気楽に……肩の力を抜いて」。



社長の小澤さんとその奥さん

よくある言葉だけれど、つつい笑みがこぼれてしまうのは、なによりも小澤さん自身の笑顔によるものなのだろう。

小澤さんが撮る写真は、七五三、入学式、成人式といった人生の節目、幸せな瞬間が多い。笑顔いっぱいこのスタジオには、小澤さんと同じ優しい雰囲気があふれている。

11 登呂もちの家

登呂公園を囲む道を歩いていると目に入るゆったりと廻る水車と古民家、そして「安倍川もち 甘辛食べられる店」の看板……。ここは安倍川もちで知られる「やまだいち」が工場に併設して運営する「もちの家」。直営店ならではのつきたての温かいお餅が楽しめるお食事処だ。趣のある建物は奥会津の農家を移築したもの。店長曰く「築年数は180年を越えています」というから相当のものだ。

店内でまず目に入るのは正面の囲炉裏。その天井は黒く煤け、それが実際に長い間使われてきたことを物語る。また、あちこちに置かれた古民具や農具の数々は、古民家と一体となって静かに佇む……。それはさながら民話の世界に迷い込んだかのよう。その雰囲気は芹沢銈介氏も魅了され、来静の折にはここに立ち寄り、登呂公園が見渡せる二階席でゆっくりとその雰囲気を楽しんでいったのだそうだ。時を忘れて、静かに過ごす。もちの家は、そんな楽しみ方が似合う。

登呂公園を囲む道を歩いていると目に入るゆったりと廻る水車と古民家、そして「安倍川もち 甘辛食べられる店」の看板……。ここは安倍川もちで知られる「やまだいち」が工場に併設して運営する「もちの家」。直営店ならではのつきたての温かいお餅が楽しめるお食事処だ。趣のある建物は奥会津の農家を移築したもの。店長曰く「築年数は180年を越えています」というから相当のものだ。

12 ランプと家具ハラカワ

登呂遺跡の西側、静かな住宅街を歩いていると、窓際に並べられた色とりどりのランプに目を奪われる。「ランプと家具 ハラカワ」は、カタログによる家具販売に加え、ランプ、小物、雑貨等の店頭販売を行っているお店だ。

店内に一歩足を踏み入ると、店主の原川さんが実際に見て気に入ったというステンドグラスのランプや、見る人の心をぎゅっと掴むような愛らしい犬や猫、フクロウをモチーフにした小物や置物、時計、子どもからお年寄りまで楽しめる音の出る雑貨などが並べられており、そこにいるだけで心が癒される空間だ。

こんなエピソードがある。その昔、お店を訪れた営業マンがフクロウモチーフのペンダントを買って帰ったところ、その後の契約成約率が上がったというのだ。また、人の言葉をマネして喋るフクロウの置物を買っていた夫婦は喧嘩が減ったとか。ふっと立ち寄ってみれば、そんなラッキーアイテムにも出会えるかもしれない。

大切な人へ素敵なプレゼントを贈りたい……。お部屋をオシャレにコーディネートしたい……。思い入れのある家具をずっと大切に使い続けたい……。ハラカワは、そんな願いをきっと叶えてくれるだろう。



10 木版画年賀状展

ごくごく普通のお宅のガレージの壁面に、なぜか飾られた数々の版画作品……。風景、花、人、建物と、モチーフも作風も様々だ。実はこれ、この家の主である山田さん宛の年賀状。全国の版画仲間から届いた版画の年賀状を毎年1月中旬～2月上旬にかけて展示しているそうで、近所でも冬の風物詩として知られるようになったのだとか。

山田さん、定年後の趣味として始めた版画制作にどっぷりとはまり、版画愛好家が集う作品交換会に参加するうちに全国に版画仲間ができたのだそう。で、その仲間の作品を地域の方々にも見てもらいたいと思って展示を始めたとのことだ。「筆で描いたものと違って、ぼやけたりかすれたりする感じに、独特のぬくもりが感じられるんです」と山田さん。

山田邸で毎年開かれるのは、規模は小さくともいわば「全国木版画年賀状展覧会」。最近では年賀状と言えばパソコンで作る向きも多いけれど、時にはぬくもりのある木版画年賀状に触れてみるのも良いのでは。

ただし、この展覧会、「展覧会期」を過ぎれば普通のお宅。会期と鑑賞マナーにはご注意ください。



除菌してくれるアイガモ。

13 静岡市高松浄化センター

毎年5月になると、登呂の空を50匹の鯉のぼりが泳ぐ。昨年にはこの鯉のぼりを見ようと2000人以上が訪れたという。鯉のぼりを上げているのは高松浄化センター。平成10年に始められたこのイベントは、すっかり登呂の風物詩として定着した。今では進んで鯉のぼりを寄付してくれる方もいて、鯉の数も増え続けているのだ。

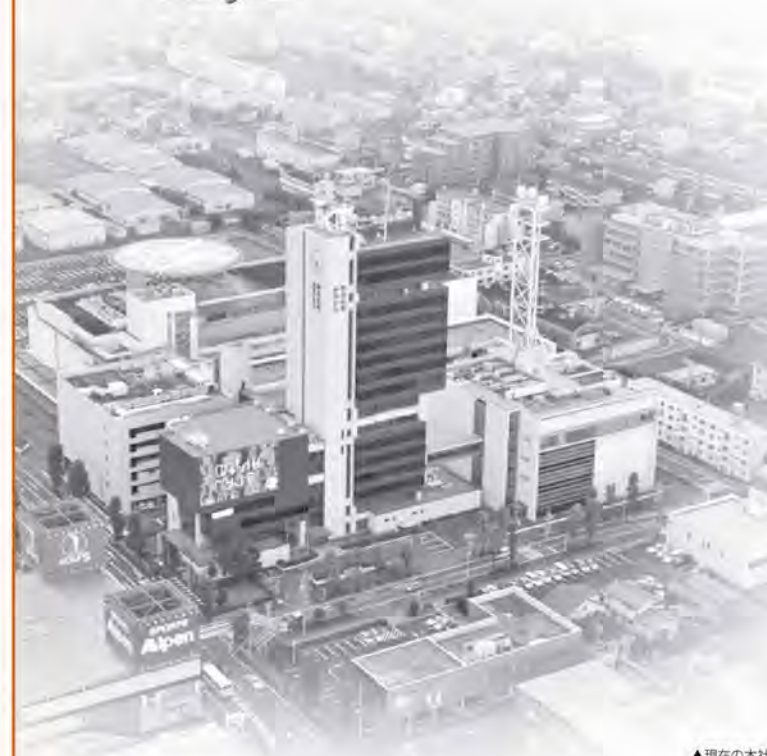
高松浄化センターは、東西は清水山から安倍川まで、南北は南幹線から賤機山までの地域の下水や雨水を浄化している施設だ。汚れた水をきれいにするのは化学薬品などではなく、微生物の持つ自然の力。12時間かけて処理された汚水は、ほとんど透明な姿に戻る。

下水処理という言葉からは想像しにくいのが、高松浄化センターでは多くの生き物を見ることが出来る。貯水池には餌を求めて鳥がやってくるし、別の池には藻を掃除する係のアヒルやアイガモが飼われている。さらに、事務所の入口にはグッピーとドジョウの入った水槽が。理由を尋ねてみると、下水と一緒に施設に迷い込んで、処理済の水の中で元気に泳いでいたのだとか。

下水処理のイメージを一変させてくれる高松浄化センター。残念ながら普段は公開されていないが、鯉のぼりの季節には足を運んでみてはどうだろう。



特集B 静岡新聞社・静岡放送



▲現在の本社

今と昔

本社は創立以来、JR静岡駅前の組屋町にあったが、発行部数増大や放送事業の拡大に伴い手狭になったため、広い敷地に恵まれ、東名静岡インターにも近い登呂に移転することになった。昭和42年の工場棟に始まって昭和45年、当時市内一の高さを誇った18階建て本館の完成によって移転が完了した。

移転当初、周辺は住宅地とはいえまだまだ水田なども残っていたが、今では駿河区役所や大規模ショッピングセンターが立ち並び、静岡市南部の拠点地区へと変貌している。



▲組屋町時代の旧本社



▲SBSの報道ヘリ



▲登呂移転後の本社（昭和45年）





14 渡辺商店

店内には所せましと並んだお菓子やおもちゃ。片隅では静岡おでんやお好み焼きも売られている。渡辺商店は一見昔ながらの駄菓子屋さんだが、よく見れば店頭にはお酒やお刺身、お惣菜まで売られている。40年前からこの店を切り盛りしている渡辺さんによると、「まあ、なんでも屋さんだね」とのこと。

渡辺商店には入れ替わり立ち替わり、お菓子目当ての子どもやおかずを買いに来る主婦、一杯飲みに来るお年寄りまで色々な人が訪れる。静岡おでんが全国的に有名になってからは、東京や北海道など遠方からやってくる人もいとか。渡辺商店のおでんは、串に刺さった具が濃く濁ったスープの中にギッシリ並ぶ典型的な静岡おでん。お目当ての具の在処を渡辺さんに尋ねると、そこから自然と会話が生まれる。そのおかげか、おでんを囲む人たちの雰囲気はとってもアットホームだ。

ふと壁に目をやってみると「わたなベニューズ」という張り紙が。なんとお客さん自らが、この店に集まる人たちの交流を深めるために手作りしたものというから驚かされる。もはや駄菓子屋の枠を超えて地域の憩いの場として愛されている、それが渡辺商店なのだ。



ちょっと小話

こんなところにも登呂遺跡～学校～

右上の図は登呂地区にある富士見小学校の校章。「小」の字の周囲を囲む形は、登呂遺跡で発掘されたつぼを表しているそうだ。また、高松中学校の正面玄関に掲げられた校章の周りのデザインは竪穴式住居を思わせる。ただ、これが登呂遺跡を意識したデザインかどうか、確かな事は不明とのこと。どちらの学校も校歌に登呂遺跡が歌われており、学習にも登呂遺跡での体験が取り入れられている。



ちょっと小話

こんなところにも登呂遺跡～水田跡～

登呂遺跡の水田跡と言えば登呂公園内のものが有名だが、登呂公園の外にも水田跡が保存されている。登呂公園東側の住宅街の中にあり、普通の公園と見間違っしまいそうだが、十字型のあぜ道が往時の風景を物語っている。



15 旅館 登呂

庭の小道を抜けると、そこは遺跡だった……。そんな旅館登呂は登呂遺跡のすぐ東隣にある。創業は昭和40年、「当時、周りは遺跡と田んぼばかりだったね」と二代目のご主人の杉山さんは言う。現在は住宅が増えたものの、落ち着いた時間を過ごせる旅館として、遺跡を訪れる観光客だけでなく、ビジネスマンや近くの結婚式場で式を挙げるご家族など、おひとりから団体まで広く利用されている。

食事を作るのは奥さんと三代目の息子さん。手の込んだものではないが家庭的な味わいが好評で、ごはんをおかわりする方も少なくないそう。上階には遺跡を望む部屋もあり、ビジネスのお客さんが目覚めて窓を開けたら復元住居が見えて驚いたという話も。朝食の後はぜひ遺跡を散歩してみたい。温かいもてなしでゆっくりとした時間を楽しめるお宿だ。



16 記念日のレストラン サンマリオ

登呂遺跡から少し東に入った閑静な住宅地に佇む「記念日のレストラン サンマリオ」。白を基調にした一軒家風のその建物は、1階はレストラン、2階はチャペル併設のウェディングスペースという造り。普段はレストランとして営業しており、大切な人や女性同士のランチやディナー、会社・仲間でのパーティーなどでも利用されているが、結婚式の日には完全貸切となり、結婚されるお二人の記念日を祝う。

「まずは料理でお二人の記念日を彩りたいですね」と語るのはシェフの池田さん。食材は地産地消にこだわりながら自ら厳選、腕によりをかけてフレンチ&イタリアンベースの料理に仕上げる。ワインもフランス産やイタリア産を中心に1本1本こだわっているのだそうだ。

サンマリオでの結婚式は1日1組限定。「新郎新婦がゲストを自宅に迎えるようなアットホームな雰囲気の中で、大切な人たちと温かな時間を過ごしてもらいたい。結婚式はお二人の生活のスタート地点。これから訪れる様々な記念日にもスタッフ全員でお祝いしたい」と池田さん。実際にプロポーズも結婚式も結婚記念日も全てサンマリオで、という方もいるそうだ。

もちろん、結婚以外の記念日もOK。誕生日や卒業・入学など……大切な記念日をサンマリオで迎えるのも良いのでは。

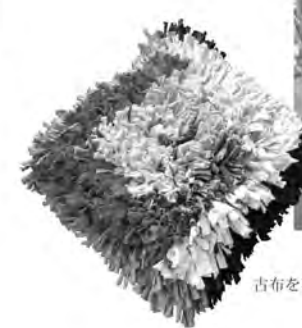


17 手遊び処 結花

「手遊び処」、「ふれあい処」、「和のお店」……手遊び処 結花の前には、何種類もの看板が掲げられている。確かに織物教室であり、手作り品のお店であり、喫茶店でもあるこのお店の魅力を一言で表すのは難しい。

手遊び処 結花は、3人の主婦がそれぞれの特技を持ち寄ってオープンしたお店だ。その内のひとりである火物さんによると、「おばさんが集まって楽しめる場になれば」という思いがきっかけだったそうだ。何もなければ集まらないからと、編み物や裂き織りの教室を開こうと考えた。途中でお腹が空いた時のため、コーヒーや軽食も提供することにした。さらに、細かい作業を続けると肩がこるので、それを解消するために体操の時間も取り入れた。そうして開店したお店には、物づくりの好きな人たちが集まった。そして、結花で作られた品物に交じって、その人たちの作ったビーズやコサージュ、ちりめん等もお店に並ぶようになったのだという。

手作りの品を求める人、物づくりに興味がある人、ゆっくりとコーヒーを楽しみたい人……この店には色々な人が集まる。軽い気持ちで結花を訪れてみれば、そういった人たちの輪に加われるかもしれない。



古布を再利用する「裂き織り」で作られたマット

スタンプを3個集めると、素敵な記念品をプレゼント！

期間中に展覧会を鑑賞すると、スタンプラリーチラシ下部の専用シートにスタンプを押印します。
3館すべてのスタンプを集めた方には記念品をプレゼントします。

静岡市 公立美術館 3館スタンプラリー

開催/引換期間：2011年2月11日(金・祝)～3月27日(日)

主催：静岡市美術館・静岡市東海道広重美術館 指定管理者(財)静岡市文化振興財団
共催：静岡市立芹沢銑介美術館
協力：静岡朝日テレビ 協賛：はごろもフーズ

静岡市美術館
静岡市東海道広重美術館
静岡市立芹沢銑介美術館

チラシ・
スタンプシートは
3館にて配布中！

対象施設：

- 静岡市美術館.....「棟方志功 祈りと旅」展 tel.054-273-1515(代表)
- 静岡市東海道広重美術館.....「江戸の東海道と大正昭和の東海道—錦絵と新版画の共演—」展 tel.054-375-4454(代表)
- 静岡市立芹沢銑介美術館.....「ひろがる色と模様 芹沢銑介の屏風」展 tel.054-282-5522

記念品引換場所：左記3館

3つ目のスタンプを押印した館にて
記念品をお渡しします。

編集後記 From Editor

●石田街道沿い、登呂公園周辺、東側の住宅地など、地区によって様々な表情を見る事ができました。一度に全部と言わず、少しずつ散策してみても面白いと思います。

●平成24年のリニューアルオープンに向けて着々と整備が進んでいる登呂公園。再整備によって公園周辺地域の賑わいが期待できます。街かど片手に、変化しつつある登呂をぜひ楽しんでください。

●今後も、皆様がお持ちの情報を元に取材したいと思います。ご意見・ご感想・情報をドシドシお寄せください。

取材協力 (順不同・敬称略)

- 株式会社静岡新聞社
静岡放送株式会社
- 静岡市文化財課
- 静岡市立芹沢銑介美術館
- 静岡市立登呂博物館

参考文献

- 「しずおか町名の由来」
著：飯塚伝太郎
補筆：長倉智恵雄

静岡文化情報「街かど」第37号

- 平成23年2月発行(年2回発行)
- 編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市葵区呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階
TEL:054-255-4746 FAX:054-653-3501
- デザイン・印刷
(株)静鉄アド・パートナーズ
〒420-0837
静岡市葵区日出町8-3(静鉄日出町ビル2F)
TEL:054-252-3132・3133 FAX:054-254-1831
- 表紙キャラクター制作
川内ゆうじ/アトリエ サンゴ
〒424-0887 静岡市清水区谷田9-22
TEL・FAX:054-345-6655



いいもの ほんもの おいしいもの



東海軒

とう かい けん

100年以上にわたり、
みなさまに愛されてきた東海軒。
これからも「安心・安全・おいしさ」を
お届けします。

株式会社 東海軒
静岡市駿河区登呂 6-5-35

http://www.tokaiken.jp/
TEL:054-287-5171
FAX:054-287-5172



Friendship School 操縦免許取得推進協議会認定優良教習所

スルガマリンサービス

ボートライセンススクール

〒424-0204 静岡県静岡市清水区興津中町522-1
0120-017-120

1・2級小型船舶操縦士

■1級小型船舶操縦士 114,600円(税込)
航行区域無制限 総トン数20トン未満の船舶操縦免許
来校4日(学科講習2日 実技講習1日 国家試験1日)で取得可能

■2級小型船舶操縦士 89,400円(税込)
航行区域5海里 総トン数20トン未満の船舶操縦免許
来校3日(学科講習1日 実技講習1日 国家試験1日)で取得可能

■特殊小型船舶操縦士 58,000円(税込)
水上オートバイ専用免許 来校2日(講習1日 試験1日)で取得可能

小型船舶免許申請受付

小型船舶免許の有効期間は5年間です。更新手続きは有効期限の1年前から行うことができます。船舶免許の有効期限が切れて失効してしまった場合は、失効講習を受講することによって、免許の再交付となります。

更新講習

更新講習は有効期限の1年前から受講できます。講習時間は約1時間30分。更新することなく有効期限が満了した場合、操縦免許証は失効します。

再交付

免許証が滅失し又は毀損したときは、再交付申請を行ってください。

失効講習

免許証が失効してしまった方は、講習機関が実施する失効講習を受講することにより免許証の再交付ができます。講習時間は約3時間。

訂正

本籍の都道府県名、住所・氏名等、免許記載事項を変更したときは訂正申請を行ってください。



大切な一枚だから、
当スタジオでしか撮れない
オリジナルを...

オザワスタジオ

0120-83-3719

静岡市駿河区登呂5丁目7-20 ■営業時間/9:00~19:00
(登呂遺跡西隣り)

「元氣な今の
「あなたらしさ」を
お撮りします。」

○オザワスタジオ 新店舗

SBS通り ●アピタ

●SBS

●高松 中学校

●登呂遺跡

●旧店舗

●登呂5

●至 浜松 東名高速道路 至 清水

いろはにほへとち
りぬるをわかよた
れそつねならむ
うねのおくやまは
ふこえてあさきの
めざしあひもせず

芹沢銈介作「いろは文二曲屏風」(1973)

ひろがる色と模様

芹沢銈介の

屏風

2011.1.4 火
⇒ 5.15 回

静岡市美術館開館記念展Ⅲ「棟方志功 祈りと旅」展協賛
【同時開催】小企画展「芹沢銈介と棟方志功」

【開館時間】 9:00開館 ～ 16:30閉館

【休館日】 毎週月曜日(1/10、3/21を除く)、1/11、3/22、5/6

【出品協力】 柏市

静岡市立芹沢銈介美術館

静岡市駿河区登呂5-10-5 TEL054-282-5522 www.seribi.jp